

全鉄連情報

平成20年 4月16日刊

[第62号] 次

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

P 1 日本エレベーター協会

P 1 加盟団体報告

P 2 鉄鋼課連絡会報告

P 2 常任理事会報告

P 2～3 鉄流懇報告

P 3 企業消息

P 3 会員入退会

P 4 業況アンケート結果

使用鋼材の品質管理についての指針を周知 日本エレベーター協会

社団法人日本エレベーター協会は「使用鋼材の品質管理に関する指針」を制定し、同会会員に周知徹底することとなった。衆知のとおり、昨年7月以降、エレベーター部材に仕様と異なる鋼材が納入され社会問題化した。全鉄連でも「再考、確かな鋼材を提供するために」とする文書を全会員に送付して、注意を促した。

その後、同協会では関係各方面との協議のうへ「昇降機使用鋼材の品質管理に関する指針」を制定し、同協会会員に周知徹底した。

全鉄連会員にとっても関連があることなので、以下の通りその内容を掲載する。

昇降機使用鋼材の品質管理に関する指針

昇降機を製造している各社において、本指針を基本的事項として各社毎での実務に即した運用マニュアルを作成し、遵守徹底を図る。

第1 目的

昇降機に使用した鋼材および部品が図面指示どおりの鋼材で作られていることを確保する。

第2 適用範囲

- 1) 鋼材材質指示に基づき直接購買する鋼材。
- 2) 図面指示に基づき制作委託先*1が購買する鋼材。
*1制作委託先 完成品もしくは部品の制作を外部に委託すること。

第3 直接鋼材を調達する方法

- 1) 鋼材を調達する際には、必ず鋼材規格*2を明示して発注する。
- 2) 構造上主要な部分*3に用いる鋼材(例えばSS400材)を発注する際は、購入先に対してミルシート*4の添付を事前要求し、必ず入手する。ミルシートは、鋼材の購入先の社判が押印されたものとする。可能な限り購入先に至るまでに経由してきた商社・特約店・コイルセンター等の社判(コピーで可)が押印されたものとする。

*2 JIS(日本工業規格)などの第三者規格、ないしは引張強度などの鋼材仕様について需要家と供給家との間で取り交わした仕様書を指す。

*3 建築基準法に基づく強度計算(強度検証法によるもの及び耐震設計・施工指針によるもの(レールブラケット))が必要な部材。

*4 鋼材メーカーが発行する鋼材検査成績書(Inspection Certificate)と呼ばれる書類で、鋼材の品質が指定された規格の要求事項を満たしていることを鋼材メーカーが証明するためのもの。

3) ミルシートは管理台帳などを用いて記録管理を行う

第4 検査体制

- 1) 鋼材受け入れ時は、発注書、納品書、現品ラベル*5などによって、鋼材規格を含め注文内容と納入品が合致していることを確認する。

*5 製品内容を表示するため、現品に貼付されるシール・ラベル、もしくは直接書き込まれるマーキングで、鋼材規格を記載したものとする。

2) 社内の第三者部門(品質管理部門など)によって、上記1)で定めた受け入れ検査の実施状況を定期的に監査する。

第5 制作委託先への対応

1) 制作委託先(制作委託先からの再委託先を含む)における鋼材調達および検査体制も、第3、第4によるものとする。

2) 制作委託元は最終責任は自社にあるとの認識に立ち制作委託先における鋼材購買状況、鋼材品質管理状況を定期的に監査する。当該監査においては構造上主要な部分用いる鋼材について、発注書とミルシートの照合を行っていることの確認を行う。

第6 教育

自社ならびに制作委託先の資材調達・検収者に対し、鋼材の種類と特性・用途の違いなどに関する知識教育を実施する。

第7 報告

本指針に基づく各社の鋼材に関する品質管理の状況について、(社)日本エレベーター協会に定期的に報告するものとする。

加盟団体報告

(平成20年3月1日

～3月31日)

鉄鋼マーケットの大切さを再認識

△北海道鋼友会(今井國雄会長)

13日(木)札幌市内「札幌グランドホテル」で第21回定時総会を開催。その席上、今井会長は「道内景気は、やや弱めの動きとされているが、実際は後退している。改正建築基準法の影響を受け減少している住宅投資は持ち直しつつあるものの、なお、先行きの視界は不良できびしい展開となりそう。こうしたなか、受注量の大幅な落ち込み、過去に経験したことのない鋼材価格の高騰が続いている。流通の一翼を担う立場としては上昇分の価格転嫁をしなければならない。ユーザーに誠心誠意、かつ丁寧丁寧に理解を求める努力を積み重ねていきたい。今一度、原点に戻り鉄のマーケットの大切さを共通認識したい」と難局に臨む姿勢を述べていた。来賓として招かれた全鉄連の林会長は「国内外の鉄鋼原料および鋼材の需給事情と価格急騰の原因や経過」「先行き不透明ながら堅調傾向にある需要見通し」などについて見解を述べていた。出席した会員からは「改正建築基準法の影響は予想以上に深刻」「道央圏以外の地方都市でも、建築物が具体化しそう」「鋼材の市況高騰に伴う価格転嫁やゼネコンとの折り合いの難しさ。供給カットによる販売制約」「建築業を中心とした倒産の増加。与信管理への傾注」など様々な声が挙がっていた。

関連会議報告

金鉄鋼課連絡会

3月26日(火)
会場 鉄鋼会館804号室
出席 松淵・野辺(経済省)林・木下(愛知)西村・中村(福)・齋藤(東京)中川(大阪)今井(北海道)齋藤(東北)河上(富山)酒匂(神奈川)

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は110,800円前月比+12,500円、前年同月比+24,500円。3月、仮需はなさそうだ。2月は仲間が大商いだった。実需に基づいた引き合いが出てきた。ホット、酸洗は4月大幅にカットされるだろう。

常任理事会

- 日本エレベーター協会より「昇降機使用鋼材の品質管理に関する指針」とする文書を受け取り、全鉄連としても、これを会員に周知することになった。(P1参照)
- 鋼材品質証明検討委員会の第1回会合が3月10日(月)開催され、その模様について事務局より報告があった。まだ、参加各業界の現状について意見交換している段階で、具体論には入っていない。
- 6月6日(金)開催予定の平成20年度定時総会についての案内状を検討し、原案どおりで発送することになった。
- 流通3団体ホームページについて事務局より報告があり、次回にテスト版を公開することになった。
- 会計監査を4月23日(火)午前11時より行う。

第398回鉄流懇概要

先々の玉確保を懸念、供給タイト化

- 東鉄連からの概況報告(中村)
△鉄筋…メーカーの大幅値上げで戸惑っている。メーカーは5月契約のものまでしか見積もってくれない。マンション販売も売り出し戸数70%以下の販売実績で、売れ残っている。ゼネコンの新規見積もりが出てこない。
△平鋼…様変わりである。そこそこ仮需が出たこともあり、動きが良くなった。スクラップ動向からしてもう一段階の大幅値上げとなりそう。
△形鋼概況…2月は在庫微減、出庫増、在庫増。H形鋼、一般形鋼が先行して上がりコラムが続いている。
△H形鋼…ときわ会在庫は史上最低の数字となった。メーカーの大幅値上げには慎重な対応で臨みたい。このような市況展開だと国際的にも独歩高になり、下手をすると値を下げる可能性もある。先行手配が相当あり、そのリバンドも考えられる。メーカー引き受けは相変わらず厳しい。
△一般形鋼…在庫は減少し、アングルベースサイズは枯渇している。相当歯抜けが歯抜けが出ている。引き受けが緩むかなと思っていたが、一部メーカーの炉修があって見通しが変わってきた。
△C形鋼…旺盛な明細が入り、倉入れ・倉出しともかなり増加した。コイルが思った以上にカットされており、想像以上にタイトになっている。2、3月で相当仮需が入っている。先行き、玉確保が困難になりそうだ。仮需を含め実需がどの程度出るか、これで順調な展開な展開

になるのか、大きな影響を及ぼさないのか、さまざまな見方はあるが、見通し難である。

△コラム…浦安ではSTKRを在庫するところは少なくなり、BCRに一本化されている。また、鉄鋼団地のなかでコラムをやっているところは少なくなっている。コイルがないため、5月納期の100トンほどの引き合いもメーカーは受けてくれない。価格より玉の確保が不安視されている。

△冷延…2月から超タイト化して、ケースでものが出せない。急激な値上げで、ユーザーの手形が長いこともあり、2次店クラスの販売業者は与信に苦慮している。

△表面処理…高炉大幅値上げ発表で仮需が増加したが、メーカーからの入荷は限られている。仕入れ高で資金繰りが大変になっている。地方特約店からは4~6月に販売に引き当てる玉の引き合いがきている。与信については客先と相談しているが、これだけ高いと運転資金にも困るだろうし、支給材に戻ることも考えられる。

△耳付き、切板母材…2月部会調査では販売・在庫とも増加。耳付き母材が増えた。メーカー供給はシャヤに対し20%カットを言ってきている。切板の動きは需要見合いであり変化はなく、2月より多少上向いている程度だ。先々、在庫はかなりタイト化する。4、5月の需要は細いが、価格は強めである。

△中板・ホットコイル…1月以降、引き合いは継続してある。関東は上げのスピードが遅いのか、さらに名阪で上がっていくので値差が縮まらない。在庫は大幅に減って、歯抜けがあって品揃えに苦労している。薄板はタイトだが厚板はそれ以上にタイト。どこまで上昇するのか見通せない。

△鋼板…地方筋から仮需があったが、基本的には実需にリンクしたものである。切板はほぼ横ばい。客先の注文に応えられないという状況が3月になって訪れた。

△鋼管概況…3月に入り仮需を含め動きが活発化。4~6月に仮需の反動を不安視している。価格上昇出荷好転で喜ぶべきだが、非常な不安の中で商売をしている。

△高炉品…昨年、次の値上げが囁かれている頃、シームレスの動きが悪く、5~6カ月で在庫が回転していたが現状、1カ月になり、玉がない。4~6月の動きは落ちるだろうが、それ以上に玉が入ってこない。状況が落ち着いてもタイトな場面は続く。

3月に入り仮需収束気味

- OSAからの概況報告(中川)
2月は先高感が強く、先行手配がかなりあった。引き合い、荷動きとも堅調だった。3月に入り、仮需の手配が減少気味。玉不足のためかもしれない。シャープ、松下など大きなプラントが進みつつあるが、町場でその恩恵は感じられない。ホット、酸洗、厚板は玉がない。歯抜けが出ている。メーカーの大幅値上げが進んでいる。これがどうなるか。未体験ゾーンに先々の不安を感じる

大幅な上りの対処に苦慮

- 愛鉄連からの概況報告(木下)
3月に入り仮需先行手配は一段落。足元の荷動きは落ち着きを取り戻している。確認申請の遅れは、中大型の申請案件は早くなっているが、中小は鈍く、実需ははかばかしくない。過去にない大幅値上げが続いて、着地点が見えづらくなっている。各メーカーの4月売り出し価格発表を受け、それに見合った価格を考えていかなければ

ならない。メーカーの引き受けカットで市中在庫は先細る。チャンネル、アングル、中板、酸洗、厚板などに品薄感が出ている。市況高騰もあって、手配はできない。仕入価格激変は今までの経験が役に立たない。当面在庫金利、販売経費のことや、ネットが10万円を超える商品を抱えるため、倉庫管理の課題も出てくるだろうユーザーへの与信管理の徹底を図り、不良債権防止に注力していく。

先行手配一巡、与信不安が広がる

●東北からの概況報告（齊藤）

景況感が悪化している。原材料の高騰を転嫁できない企業が多い。市場は先行手配が一巡し、静かな状況である。中小建設業者や関連業者の倒産が頻発している。一軒一軒の倒産金額は小さいので目立たないが、個々の販売店にとっては痛手となっている。仙台市の商業地区では地価上昇が著しい。全国一の上昇率となっている。

年度明けも厳しい状況続く

●北海道からの概況報告（今井）

改正建築基準法の影響も持ち直しつつあるが、需要全般に弱さが見られる。4月も厳しい状況である。中堅ディベロッパー、ハウスメーカーの倒産で影響を受けている。ファブの1月積算量は1万8千トンと高い水準なので、物件が出てくるかもしれない。厚板は入手難である少ないながら仮需が出ている。さらなる値上げとなりそうので、価格は現在でも上昇中。7月の洞爺湖サミットの関連案件でプレスセンターが発注されるようだ。

改正建築基準法の影響、尾を引く

●富山からの概況報告（今井）

荷動きは例年とそんなに変わりはない。改正建築基準法の問題も少し進んでいるが、前年比ではマイナス。価格の値上がりで売り上げ増となっているが、地方なので仮需もなく、扱い物件は小口中心。駆け込み発注のようなものはない。新幹線工事は最盛期で発注がすすんでいる。メーカーの値上げに追いついていくのが精一杯。

建設関連業界の与信不安さらに顕在化

●神奈川からの概況報告（酒匂）

2月にディベロッパーが3社、たて続けに倒産し、ゼネコン、関連業者に与信不安が広がっている。金融機関は融資を厳しくしている。マンション販売も成約率60%を切っている。資材大幅上昇、物件値下げという矛盾が生じている。製造業については、建設機械にレンタル業者の買い控えが見られ、そのほかは大きな変化はなく、堅調に推移している。

急激な状況変化で先々の玉確保を憂慮

●林会長（総括）

原料や副資材の高騰を背景にした製品の大幅値上げの動きは、海外マーケットに比べて割安感の国内価格を是正するという一面もあろう。価格の先高感から、年明け以降、仮需が発生している。3月の業況アンケートではDIが売り上げ増、品不足へと急激に状況変化している品薄感が高まっているとの調査結果は、建築基準法改正の影響により荷動きが低調ななか、メーカー及び商社が輸出にシフトするなどの対応をとっている。このため在庫は増加しなかった。むしろ、今後は玉確保が難しくなる

と思う。先々の建築需要については、改正建築基準法により、物件そのものが消滅したケースもあれば、新たに計画されたものもあるので、法改正の影響が払拭されたとしても、需要規模については大きな変化はないとみている。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

需給が混乱しないよう対処を

●経済産業省（石川課長）

先高感から仮需が発生しているという話もあり、4月以降は需給が混乱しやすい環境にある。是非とも実需を見極めた対応をお願いしたい。鋼材値上げについては、その背景を丁寧に説明し、理解が得られるよう努力していただき、市場に混乱を来さぬよう注力してほしい。なお、中小企業庁によるセーフティネット保証は、指定期間を6月30日まで延長し、対象業種に鉄鋼シャワー・スリット業を追加したので必要に応じてご活用を。

急激な状況変化にも適切な対処を

●小野会長

経済動向については、内閣府が「踊り場局面」という景気判断を出したが、専門家の意見は分かれている。要は今、様々なことが大幅に変化する只中であり、需要環境の先行きは不透明、不確実だと思う。こうした状況下であればこそ、メーカー・商社・流通は各々の役割を果たし、独自の機能を磨く努力を行い、共に知恵を絞ってユーザーにどのような価値を提供できるのかを考え、実行していくことが重要となってくる。また、成長を続ける海外市場に対して、いかに関わっていけるかも課題である。一部品種で需給が逼迫しているが、メーカーは懸命な増産に努めており、ユーザーの協力を得ながら供給に支障が出ないように努力している。原材料の高騰、市況の短期間での大幅上昇により仮需発生や売り控えなどの問題を懸念する向きもある。これまで以上にユーザーとのコミュニケーションを密にし、実際の使用状況まで踏み込んだ実需を精査することが必要だ。本日、各地区の報告から地方経済の冷え込みが窺われ、与信管理の面でも従来以上のきめ細やかな対応が必要となっている。このように環境が大きく変化する時は、様々な動きや指標に一喜一憂することなく、今やるべきことを先延ばしせず着実に実行していく姿勢が求められる。

会員企業消息（平成20年3月1日～3月31日）

〔所在地・代表者変更など〕

○藤金埼玉スチール(株)～代表者に西本雅文氏が就任。

会員入退会（平成20年3月1日～3月31日）

〔入会〕

*該当事項なし

〔退会〕

- 野水鉄興(株)（東鉄連・神田）
- 川上鋼管(株)（OSA）
- 神戸ステンレス(株)・野並シャワーリング工場・日神鋼業(株)（兵庫）
- (株)谷内（北海道）
- (株)ワテックス宇都宮支店（栃木）

（了）

3月25日締切で、当会役員168名に対し、このアンケートを行ったところ、92名(54.8%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

*DI算出方法= (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 回答数×100

単価上昇と仮需で売上増

【問1】貴社の2月(先月)の総売上金は、前年同月比々如何でしたか。

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	2月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		DI
20	▲5	▲24	▲17	▲16	2	▲33	▲57	▲56	▲54	▲74	▲22	数量	20(22%)	20(22%)	33(36%)	11(12%)	8(8%)	92	36
44	5	▲4	8	15	19	▲6	▲47	▲24	▲38	▲53	4	金額	32(35%)	29(31%)	21(23%)	7(8%)	7(8%)	92	87

建設向け以外はほぼ横ばい

【問2】貴社営業窓口から見て3月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	3月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		かなり増減	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		DI
▲31	▲50	▲48	▲34	▲39	▲53	▲58	▲59	▲65	▲66	▲82	▲59	公共建設向		6	46	18	7	77	▲34
8	▲28	▲23	▲7	▲3	▲39	▲31	▲64	▲85	▲81	▲84	▲47	民間建設向	1	15	41	20	6	83	▲18
4	▲26	▲26	▲12	▲9	▲45	▲12	▲14	▲11	▲11	▲15	2	自動車向		7	29	4	1	41	2
4	▲25	▲23	▲6	±0	▲36	▲14	▲32	▲39	▲44	▲47	▲8	その他需要家向	1	18	36	13	3	71	1
▲22	▲49	▲61	▲52	▲21	▲35	▲34	▲45	▲43	▲58	▲52	1	仲間取引	3	17	29	13	4	66	3
▲8	▲36	▲36	▲20	▲14	▲41	▲32	▲46	▲53	▲56	▲61	▲25	計	5	63	181	68	21	338	▲11

収益回復、DI値3桁へ

【問3】貴社の2月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	2月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		黒字	若干黒字	収支トントン	若干赤字	赤字		DI
86	93	64	57	78	79	52	52	59	71	16	38		41(45%)	29(31%)	19(21%)	2(2%)	1(1%)	92	116

先行き需要予測分れ、不透明感募る

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	2月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		DI
36	32	26	52	56	52	36	▲4	▲36	▲59	▲29	18		6(6%)	28(31%)	27(30%)	22(24%)	8(9%)	91	2

全品種不足ぎみ傾向、酸洗・厚板は非常に不足へ

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	需要状況 見込角虫	A	B	C	D	E	計	3月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		非常に不足	やや不足ぎみ	ほぼ需要動向	やや過剰気味	非常に過剰		DI
61	52	38	15	27	45	34	21	±0	▲10	2	13	鉄筋用丸鋼	5	15	28	2	1	51	41
▲2	9	±0	2	±0	7	6	±0	▲2	▲10	▲6	10	構造用丸鋼		13	30	4		47	19
2	▲2	▲7	▲11	▲7	2	±0	▲5	▲14	▲11	▲9	11	平角鋼	3	11	36	1		51	31
5	▲20	▲23	▲22	▲2	16	19	▲8	▲29	▲35	▲3	37	H形鋼	13	25	17	2		57	86
±0	▲6	▲15	▲18	▲11	▲2	▲4	▲27	▲31	▲44	▲27	▲4	コラム	6	16	15	4		41	59
6	▲6	▲15	▲17	▲18	▲16	▲3	▲13	▲24	▲14	▲15	12	小形山形鋼	4	19	31	2		56	45
3	▲3	▲15	▲18	▲19	▲20	▲7	▲10	▲24	▲14	▲13	13	中形山形鋼	7	17	33	2		59	49
15	4	▲8	▲21	▲18	▲17	±0	▲8	▲19	▲13	▲10	20	溝形鋼	11	23	21	1		56	79
▲15	▲15	▲16	▲17	▲20	▲18	▲19	▲23	▲31	▲33	▲25	▲15	軽量形鋼C形	2	9	29	9		49	8
▲5	▲12	▲11	▲15	▲6	▲5	▲11	▲16	▲18	▲24	▲12	▲14	軽量形鋼広幅	1	7	26	4		38	13
±0	▲8	▲9	▲22	▲22	▲24	▲22	▲24	▲27	▲30	12	45	冷延薄板	14	18	12	3		47	91
30	12	8	▲10	▲28	▲26	▲18	▲13	▲19	▲23	12	48	熱延薄板	11	33	15	2		61	87
12	▲5	▲2	▲13	▲14	▲13	▲16	▲24	▲24	▲25	±0	36	表面処理鋼板	12	18	17	2		49	82
9	▲13	▲23	▲17	▲42	▲45	▲30	▲24	▲24	▲28	39	100	酸洗鋼板	24	22	4	1		51	135
36	11	▲6	▲6	▲26	▲35	▲17	▲6	▲18	▲13	11	69	中板	11	33	14	1		59	92
37	28	18	12	15	20	48	29	38	47	63	90	厚板	19	27	12	2		60	105
32	35	14	15	29	38	63	50	64	66	83	100	極厚板	19	9	10	1		39	118
7	▲2	▲2	▲5	▲5	▲7	▲6	▲6	▲14	▲4	▲4	5	縞板	3	19	27	3		52	42
2	▲13	▲14	▲16	▲15	▲16	▲16	▲23	▲22	▲29	▲17	▲9	中径角	2	9	37	2		50	22
4	3	▲7	▲9	2	▲9	▲9	▲18	▲16	▲18	▲14	▲7	ガス管・黒	3	9	36	3		51	24
▲2	±0	▲8	▲12	▲2	▲10	▲9	▲19	▲18	▲23	▲17	▲6	構造用鋼管	2	9	30	3		44	23
12	2	▲5	▲10	▲9	▲7	▲1	▲8	▲14	▲14	2	26	計	172	361	480	54	1	1068	61

	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (景況感)	<p>伊藤忠丸紅鉄鋼</p> <p>鋼管出荷は大手向けのみは足下堅調。4月からの値上げを控え、3月出荷で一部返需が出ているものの、依然として店売りは荷動き低調。且つ在庫水準は依然として高い。</p>	<p>岡谷鋼機</p> <p>高炉各社の4月以降2万円を超えるレベルの大幅値上げが発表になり、コイルセンターや流通業者が値上がり後の市況形成に向け積極的に価格引き上げを進めている。市場には先高を見越した在庫とみられる引き合いも続いており、コイルセンターなどは、高炉メーカーからの店売抑制の影響もあり在庫の余剰感が少なく更によりタイト感が強まっている。品種別にはめっき品も品薄な状態であるが、特に酸洗、冷延などは無いもの高い様相を呈しており市況は続伸している。</p>	<p>JFE 商事</p> <p>造船、建設分野向けの旺盛な需要は持続し、更に橋梁、鉄骨向けの需要が増加すると今後益々需給の逼迫は加速される見通しとなる。</p>	<p>日鉄商事</p> <p>棒鋼：改正建築基準法の影響が続き需要は低調に推移。電炉メーカーは鉄スラグの高騰、出荷停滞による契約残の増加をうけ大幅な値上げを提案。先物物件に対しては一部で着工開始時期を区切った選別受注をする動きもみられる。</p> <p>形鋼：足下の需要は低調であるが、メーカーの急激な値上げによる先行手配により、需給はタイト感が強い。市中在庫は前月に比べ減少。</p>
2. 需要産業動向	<p>自動車・建機・産機分野 (含む伸管) 向け機械構造用シームレス管の需要旺盛。プラント向けは小型定修案件のみ。一方建築・土木向けは荷動き低調のまま。ガス管は需要見合いの販売となっている。</p>	<p>自動車、産業機械向けなどの製造業は依然好調な需要環境が続いている。1月の自動車生産台数は97.7万台(前年同月比+8.7%)となり、輸出(同+16.7%)を中心に好調な状況である。産業機械も1月受注としては前年同月比+35.5%と7ヵ月連続の増加となった。建築関連では新設住宅着工戸数は前年同月比5.7%減少の8.7万戸と7ヵ月連続減少するも、減少幅は次第に縮小している。非住宅着工床面積は前年同月比13.2%減少と減少幅が再び拡大した。</p>	<p>造船分野は1月末の手持工事量は6,479万G/Tで前月比では微減となったが、依然好調さを維持している。建設分野は1月の出荷金額ベースで前年同月比64ヶ月連続の増となり好調を維持し、特に輸出は70ヶ月連続の増を続けている。産機分野は1月の受注金額ベースで前年同月比国内24.7%増、輸出85.0%増と好調に推移している。建築は中小物件の荷動きは盛上がり欠けに欠けるが、橋梁も含めて08年度は益々高まっていく見通しもある中、需給逼迫度は益々高まっていくことが予想される。原材料の高騰による仕入価格の上昇により、市況は荷動きの有無に関わらず、上伸基調にある。</p>	<p>首都圏の再開発案件や大型店舗など目先の物件については具体化しているが、建築資材の高騰により、先行きの建設投資については不透明感が強い。</p>
3. 輸出入動向	<p>1月度の鋼管輸出はシームレス・溶接管ともに12月を若干下回った。鋼管輸入は、溶接管において韓国からの輸入の漸減が続いている。</p>	<p>アジア市況の上伸にともなう、海外ミルが値上げ姿勢を強めているうえ、対日向けの数量削減も続いている。1月の薄板3品の輸入量は12月よりは若干増加したものの、昨年は熱延(前年比1.2%減)、冷延(同9.6%減)、重鉛メッキ(同19.7%減)と総じて減少しており、思うようには手当てができていない状況である。</p>	<p>1月の輸入通関実績は17,700ト、前月比8,700ト増となった。内中国材が74%を占める。</p>	<p>急激な為替の変動が新規高騰に大きな影響を与えている。韓国向け輸出についてはウオン安の影響により一時高騰は止まり、米回やアジア諸国向け輸出についても円高により、新規成約の動きは鈍っている。</p>
4. 海外市場動向	<p>油井管の需要は引き続き好調であり、2008年度上期も同様の状況が世界的に続くものと思われる。大型パイプライン、プロジェクトも引き続き旺盛で、UO鋼管は世界的にタイトな状況。</p>	<p>主要市場である米国はサブ・プライム問題の深刻化により景気低迷が鮮明とされているが、新興経済・資源国は高成長を維持し底固く推移している。しかしながら、世界経済は米景気の先行き不透明感に加え、原油の動向にたいしては更に下振れする可能性もあり、予断を許さない情勢となっている。</p>	<p>原料価格の高騰と需給逼迫の影響を受け、国際的に厚板価格は依然上昇基調にある。</p>	<p>国際的な鉄源及び製鋼原料の高騰により、中国市況は強含みで推移。中国は輸出税増徴により半製品の輸出が激減しており、アジア地区でのスラブやピレットの高値の一因となっている。</p>

発 表者	電炉	高炉
発 表 項 目	ダイワスチール	新日本製鉄
1. 需給動向(景況感)	<p>①建築申請件数(1号~3号) 08.1月 12,717件 (前年度同期比▲6.2%)</p> <p>②07.11~08.1月のRCの着工面積 前年比 全国▲41% /近畿▲45% 08.1月のRCの着工面積 前年比 全国▲15% /近畿▲46%</p> <p>③マンションの着工戸数 08.1月 前年比 全国▲12%、首都圏+11% 近畿▲42%</p> <p>マンション契約率 08.1月首都圏 53% (前年比▲21%) 近畿 58% (前年比▲3%)</p> <p>④08.1月の小棒メーカーの生産量 前年比全国▲13% 関東▲20% 関西▲21%</p>	<p>07年10~12月期の実質GDP成長率(改定値)は、前期比年率3.5%増と前期の同1.2%増から加速した。しかしながら、同期の法人企業統計では経常利益が2四半期連続、設備投資が3四半期連続の前年同期減となっており、企業を取り巻く環境は厳しさを増している。海外は、米 国経済が減速しており、欧州も成長率見通しが下方修正された。一方、新興国経済はインフラ投資、建設投資、個人消費等内需が依然高水準で推移している。</p>
2. 需要産業動向	<p>①鋼材に関わらず、あらゆるものの値上のため、施工サイドの投資メイン ドが冷え込み、改正建築基準法の影響というより、需要そのものが冷え込 むことも考えられる</p> <p>②まずまず、取引先との与信リスクが高まっており、流通として非常に慎 重な販売姿勢を感じられる。</p> <p>③1月~2月は、先高感をみたゼネコンサイドの引き合いもあつたが、現 時点では、引き合いも少なく落ち着いた展開。積算資料での価格が新聞市 況からも大きく乖離。3月号鉄筋 積算資料 77円 日経新聞 90 円。</p>	<p>国内需要を見ると、1月の普通鋼鋼材受注は改正建築基準法の影響も あり、建設向けと販売業者向けの前年同月比減が続いているが、製造業 向けは7ヵ月連続、特殊鋼は6ヵ月連続での前年比増となり、鋼材内需 全体では0.2%増と底堅く推移している。一方、外需は、1月の全鉄鋼 輸出が前年同月比9.7%増の305万トンと同月の過去最高を更新するな ど好調に推移しており、1月の粗鋼生産量も前年同月比1.8%増の 1,025万トンと、同月の過去最高を更新した。他方、1月末の普通鋼鋼 材国内在庫は、前月末比では減少したものの前年比では10万トン増の 562万トンと依然高水準で推移している。</p>
3. 輸出入動向	<p>①08年1月ピレット輸出 106,054トン (前年比 +53%) 鉄筋棒鋼輸出 47,476トン (前年比 +323%)</p> <p>②国内価格が上昇しており、内外価格差も解消の局面にきており、今後は、 国内の需要とスクラップ高および為替の考慮が必要な局面</p>	<p>【海外市場動向】 海外鉄鋼市場では、減速が続く欧米を除き世界の鉄鋼需要は底堅く推 移している。特に中国は生産の拡大傾向に歯止めがかからず、2月の粗 鋼生産は前年同月比7.0%増の3,888万トンに達した。他方、2月の鋼 材輸出は、年初に実施された輸出関税率の賦課/引き上げの影響もあり、 前年同月比29.0%減の311万トンと、18ヵ月ぶりの300万トン台に低 下した。欧米経済減速が新興国の鉄鋼需要に与える影響を慎重に見極め るとともに、中国の生産拡大と輸出動向には引き続き注視が必要であ る。</p>
4. トピックス	<p>①東京製鉄 スクラップ購入価格(公表値) 3月19日 岡山陸 54,000 円 宇都宮 54,000円。</p>	